

第3回は学習指導要領を踏まえたうえでの授業づくり第1回目でした。能勢町教育委員会辻課長より、楽しく難しい講義がありました。YES・NOカードによる質問では率直な反応がうかがえました。また、能勢の動植物が掲載された冊子を見て自然の豊かさを知ると同時に、ミントやヘクソカズラの香り(におい)の葉など、実際に触れて感じて体験できた講義となりました。初任者の先生も生徒のような感覚で受講できたのではないのでしょうか。

☆大阪がめざす授業スタンダード☆

同じ1年生でも進度や内容が違って、私もやってみようと思いました。指導案を書く機会があつてよかったです。

授業を組み立てるときに自力解決の時間を作れるように意識していましたが、今日の講義で自力解決につながる工夫や見通しを持たせるための手立てが不足していたことに気づきました。『1分の積み重ねが20コマ分になる』ということ聞き、学びの保障のためにも時間の使い方を見直そうと思います。

授業は同じ学年なら同じような授業になると思っていたが、学級の子どもの実態によって内容が全く違って来るのを知った。これからは何事にもねらいを持って取り組んでいきたいと感じた。

毎日の授業の作り方に悩んでいたところだったので、今回の講義で学ぶことができ、心のモヤモヤが少しほぐれたように思います。『1分の積み重ねが何時間にも何日にもなる』という言葉が心に残りました。

立派な指導案を作成できても、子どもの実態に即していなければ形だけのものになってしまうので、学校の実態に合わせ、改変を加えて適切な指導案を完成させていく。

授業時間内にどうしても終わらせようとして焦ったり、頭の中で考えた想像(指導案)どおりにならず腹立たしく思ったりと、授業が先生主体になりがちな時はありませんか。『やらなければ』を考えると子どもたちの注意は途切れてしまい、集中しづらくなります。学ぶ機会も減ってしまうでしょう。難しく考えず、子どもたちの『なぜ?』をたくさん受け止めてあげてください。

☆教材観に何を書くか?☆

日々の授業で子どもたちが『取り組んでみたい!』『考えてみたい!』と思えるような導入をすることの大切さを感じました。指導案を交流することで同じ学年の先生がどんな風に授業展開しているのかを共有できてよかったです。

授業づくりのなかで、子どもが主体となり『学びたい』『やりたい』『触りたい』という気持ちが学び続ける姿勢につながる事がわかりました。私も実物を用意したり子どもが興味を持ったりするような提示の仕方を身につけたいです。

同じ学年で集まって話し合う機会をもっと増やして頂けたらなと思いました。それぞれの取り組みや悩みを話し合えたことでとても有意義な時間だったと感じました。

人それぞれによって教材の解釈は違うということを改めて感じた。これから何本も指導案を書く中で書き方を身につけていきたい。今回の自己評価チェックをして、自分の無力さを感じたので精進していきたい。

指導案を紹介しあい、同学年の先生方が実際行っている単元を違う視点で聞くことができ、とても参考になりました。

同じ初任者ということで、共感できることはたくさんあるでしょう。研修を受講することで新しい発見と前向きな考えを持ち帰ってほしいと思います。現場にはたくさんの先輩、同僚、子どもたちがいます。型にはめる(はまる)ことなく、柔軟な対応ができるのも先生の魅力の一つです。視野を広く持ち、素晴らしい教師像を作りあげてください。まずは見本になる先輩の先生を見つけ、参考にしてみてください。

☆子ども理解とは☆

初任者指導の先生にいつも『グループワークやペアワークを取り入れたほうがよい』と言われる。一方的な授業で、わかる子どもばかりに発言させて『そうだね』と進めてしまっているからです。今回の①出会う②考えを持つ③伝え合う④高めあう⑤振り返るという流れを講義でつかめたので、授業にも活かしていきたいです。

まずは子どもたちの印象に残るような授業づくり『生演奏でみせる』などおもしろい授業をしていきたいと思います。自分の教科では感性を養う授業にして、高めていきたいと思います。

項目ごとに詳しく講義していただいたり、実像に触れ合う機会があったりと、子どもの気持ちになって考えることができました。『子どもの実態に合わせる』=『子どものことをよく知っている』ということだと思うので、目の前の子どもたちのことを積極的に知ろうとすることを忘れずにいたいと思います。

同学年の先生と話げできたことで先生方の教材や子どもへの深い理解に刺激を受けた。自分自身の教師としての在り方や考え方を見直すとても有意義な時間になった。

教育実習で指導教官の先生に『子どもは必要感がなければ話し合いはしない』と言われました。問題意識を持たせることが大切だということでした。

子どもを理解する力は、子どもの力を信じる教員の資質・能力の要です。子どもの現状や課題を見抜けないうちは、どんな集団づくり・授業づくりも上達することはありません。頭ではなく、心で感じて動くことです。どう動けばいいのかわからないときは、周りの先生に相談してください。成功も失敗もすべて糧になります。そして何より大切なことは、子どもを理解したいというあなたの熱意があることです！！

